

# SORA Dawn of the Travel web magazine 2026.jan. vol.129

## —新しいモルディブの夜明け—

### Photo & Story: Kyu Furumi

# Maldives Legend

MAP  
CLICK!



海原に黄金色の船底が映える

モルディブの新しい時代へ



モルディブは僕にとって、海外のホームグラウンドのようなもの。慣れたダイビングポイントであれば、問題なく一人でも潜ることができた。僕にとっては身近で慣れ親しみ、たくさんの驚きや、素晴らしい興奮を与えてくれた海。水中撮影をするには完璧すぎるほどの環境が揃う海。だったのだが、世はコロナ禍に突入。それと同時に僕のモルディブへの渡航は一気に減少する。もちろん仕方のないことなのだが、「もうこれまで通りには来ることはできないのかな…?」心中ではそんなことを思っていた。

2025年、ついに久しぶりのモルディブへやってきた。久しぶりすぎて、ちょっとうるうるしたのは内緒の話。モルディブの名ガイド的場さんと共に、新しくオーガナイズされたクルーズ船「サンシーカー」での航海記をお届けする。

# 久しぶりのモルディブ

マーレの空港に到着。着陸した窓から見える空港の外観は、なんだか近代的なものになっていた。機体からイミグレーションまでも徒歩じゃないし、建物の中も綺麗に改修されている。ちょっと来ない間に変わるものんだなあ。と思いつつ、預け荷物を受け取り外へ向かい、迎えに来てくれた的場さんと合流した。コロナ禍中も東京ではちょこちょこ会っていたけど、えらく久しぶりな気がしてくる。

「久しぶり！」ところで、今回乗せてもらう船って紹介する時は、『モルディブ・レジェンド』と呼べば良いの？的場さんに、いきなりの素朴な疑問の先制パンチを浴びせる。「あっ！ いえ、実はレジェンドの船は何隻かあるんです。なのでこの船の昔からの呼び名で『サンシーカー』と呼んでもらえたら良いと思います」。『SunSeeker…。『太陽を追い求める者』って感じなのかな？ なんか詩的でかっこいいね！』と言う感じで、以後僕はサンシーカーと呼ぶことになった。皆さんもぜひ覚えておいてください。



Dawn of the ~~Travel~~  
**Maldives Legend**



tsumi-shima  
ダイバーの夢をつみあげていく島



# やっぱりスケールのデカい海だ！

久しぶりに飛び込んだモルディブの海はやっぱり刺激が強かった。マンタポイントとして名高い北マーレ環礁のLankan Reefや、バア環礁の人気ポイントDharavandhoo Cornerでは、単体のマンタにとどまらず、複数のマンタが入り乱れるスクランブル状態。あっちもマンタ、こっちもマンタの大忙し。的場さん曰く「ちょうどこの10~11月あたりはマンタの求愛シーズンなんですね」とのこと。確かにメスの尻を追いかけて回している複数のオスを見かける。クリーニングステーションで待機する僕らの目の前を、3~5匹ほどのマンタが結構なスピードで入れ替わり立ち替わり、ブンブンと泳ぎ回る。透明度の関係で全てが見えている訳ではないが、きっと狭い範囲の中に10数匹のマンタは存在するのだろう。オスはメスを追いかけながらも、道中でかわいい娘を見かけたら、そっちにふらふら～っと吸い寄せられてしまうんだろうなあ。と、思うとちょっと笑えてくる。彼らにとっては真剣勝負なんだろうけどね。モルディブで改めてマンタたちの熱情を感じさせてもらった良き時間。僕たちも熱を忘れちゃいけないね。



4匹のマンタがクリーニングステーションの上で旋回する



「タイマイ！ うしろうしろ！」と心で叫ぶ



やつぱりスケールのデカい海だ！

ぶつかるほど接近してくるナイトマンタ



Dawn of the *Travel*  
Maldives Legend

tsumi-shima  
ダイバーの夢をつみあげていく島



# サメに恋焦がれる日

みんなの憧れジンベエザメをはじめ、とても多くのサメが生息するのがモルディブの海。もちろん僕もサメは大好きなのだが、こちらから向かえば必ず逃げるし、自然環境下での撮影自体はなかなか難しい。結局行き着くのは、ジッと息を殺し静かに待つ。そして、目の前にやってきたところを、バチっと撮る。僕は合気道を経験したことはないのだけど、合気道は「向かってくる力を受け流して利用する」という。サメの撮影もそんなイメージ。いや、こう言ってしまうと全ての撮影に当てはまってしまうけど、こちらから「撮るぞ撮るぞ！」と力んで近寄るのではなく、被写体にスッと懐に飛び込んできてくれるような立ち振る舞いが、僕にとっては理想的。その方がサメたちの顔もなんと無くりラックスしているような気がする。

しかし、主にグレイリーフを中心には、  
今回は本当に彼らに近寄ることができた。  
実はサメたちも繁殖シーズンを迎えていたらしい。初めて潜ったHani Kandooでは、マダラトビエイの編隊に導かれるように泳ぐと、数10匹のサメの群れに、ギンガメアジ、バラフエダイなどが混ざり合っていた。濃紺の海が銀河のような、まさにギャラクシーダイビングだった。潮のタイミングなど条件は様々あると思うが、彼らは必ず目の前までやって来てくれる。追わず、向かわず、ジッと待つ。少し遠くから見つめていると、いつかその思いが届くのかもしれない。

Dawn of the ~~Travel~~  
Maldives Legend



目の前を悠々と旋回していたグレイリーフ



# サメに恋焦がれる日

—一体何匹のサメがいたのだろう



Dawn of the Travel  
Maldives Legend

小さなイソマグロを小さなサメが追いかける



目の前を悠々と旋回していたグレイリーフ



## モルディブの日常

マンタやジンベエにサメ各種の大型生物に加え、バラフエダイやマダラトビエイ、ヨスジフエダイなどの群れが、一度にドッと現れることもある。壮絶な群れにドキッさせられて、その後にやってくる安堵感というか、「いやあ凄かった～！」という興奮の余韻が結構好き。ずっとドキドキしっぱなしでも良いんだけど、たまには一息つきたいな。

白い砂地を眺めているだけっていうのも好きだな。藤の花のように咲く満開のソフトコーラルも大好物。もちろんインド洋固有種の魚たちを探すのも最高に楽しい。モルディブの海は何も押し付けない。皆んなの好きで溢れているんだな。そんなモルディブの日常の海を、自由に心のままに満喫してほしい。



# モルディブ・レジェンド「サンシーカー」

長らくWeのモルディブの代名詞として活躍したアイランドサファリ号から移行し、新たな我々の拠点となったのが、今回乗船した「サンシーカー号」。新造船という訳ではないこの船を選ぶにあたっての決定打はなんだったのだろう?「最新の金属製の船も良いのですけど、乗船している時に「ミシッ、ミシッ」と音がする、モルディブらしい木造船を味わってもらいたいんですね。内装も木目が温かいというか、クラシックな雰囲気が良いなあと想いまして。」と語る的場さん。確かにリビングは落ち着いた雰囲気でリラックスすることができるし、改めて意識すると木の軋み音も心地良いじゃないか。船旅感万歳だ。

そしてこの船の後部アッパーデッキには、バースペースと真水のジャグジーも搭載されている。的場さん曰く「なんといってもこのスペースに僕は惹かれたんですよね! 広くて開放的なこの雰囲気。夕飯までのサンセットの時間などは、モルディブの海風を感じながらお酒を飲んでいると本当に最高んですよ!」たしかに、うわばみの的場さんならではのナイス着眼点。実際に彼の勧めるスタイルで、夕方のサンセットビールを楽しんでいると、なんとも柔らかい夕方の光に包まれ、やがて空は一面の桃色へと変わり、ゆっくりと夜の帷が下りていった。ダイナミックな空のアートも満喫しながら、サンシーカーの夜は更けていった。



サンシーカーの料理は毎食美味しい!



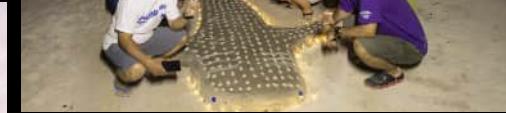
クルーが魚を釣り上げると刺身なども



乗船中にお誕生日を迎えられました



このジャグジー周りがアフターダイブの拠点になります



トリップ中は無人島でロマンティック・ディナーを開催



皆さんに良い風が吹きます



バーマンもお待ちしております



モルディブ歴19年となる名ガイド的場さん。  
朝から晩まで頼りになります



1200本!  
おめでとうございます

Dawn of the Travel  
Maldives Legend

tsumi-shima  
ダイバーの夢をつみあげていく島

